



What IS IT?

2025 Vol.101

令和7年10月発行

ISIT: Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies

地域企業協働プログラム、いよいよ始動

令和7年度

ISITは、地域企業と学生・若手人材が協働し、実際の課題解決に挑む「地域企業協働プログラム」を開始します。本プログラムは、地域におけるデジタル化やDX推進を後押しし、企業にとっては新たな成長機会、学生にとっては実践的な学びの場を提供することを目的とし、地域課題の解決、企業の競争力強化、人材育成の好循環を目指します。

地域企業と学び手の協働による主な取り組み内容としては以下のとおりです。

- ・地域企業と参加者によるチーム編成
- ・DX推進計画の策定や業務改善への挑戦
- ・AIを活用した小規模実証(POC)の実施
- ・新規事業のアイデア創出・検証

プログラム開始に先立ち、参加者が必要な基礎知識と実行力を養うため、7月29日に「DX『超』実践講座」を開催しました。本講座では「心・技・体」を柱とし、DXを推進するためのマインドセット(心)、デジタル技術やノーコードツールのスキル習得(技)、現場での実行力(体)をバランスよく育成します。

参加者は座学に加え、ケーススタディやワークショップを通じて、実務に直結する知識と経験を習得し、協働プログラムで即戦力として活動できる土台を築きます。

本プログラムを通じて、地域企業は外部人材とともに新たな視点で課題に取り組むことができ、参加者は現場に根差した実践的スキルを磨くことが可能となります。また、企業・人材・地域が一体となることで、新たな連携やイノベーションの創出が期待されます。

“DX学習者“から、“DX推進者“へ

参加無料

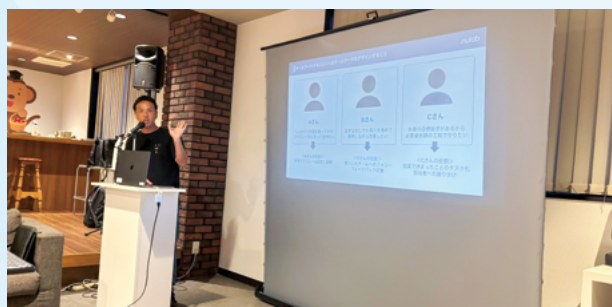
地域企業協働プログラム

／ 受講生募集！ ／

募集期間：2025/8/25～9/30

実施時期：2025/11/10～2026/1/30

地域企業協働プログラムとは？	得られるスキル・経験
受講者が自身のスキルや経験を活かし、実際の地域企業課題に取り組み、インターンシップ型のDX推進プロジェクトです。企業と受講生がチームを組む。毎月の月間オンラインで課題・検証・進捗報告を行いながら課題解決を目指します。	【実践的なDX推進スキル】 実際の企業課題に向き合い、AIやデータ活用を含む産業立派から得るまで一連のDX推進プロセスを体験。
受講生は5名前後のチームで、DXプロジェクトの進捗管理や課題検証、企業への中間・最終報告を担当。プロジェクトを通じて、机上では得られない現場での“面所”や実践的なDXスキルを習得します。	【多様な専門性との協働】 チームメンバーや企業担当者と連携し、異なる視点や知識を統合する力を磨く。
	【キャリアアップの機会】 知識を積み、DX人材として市場価値を高める。



DX「超」実践講座の様子

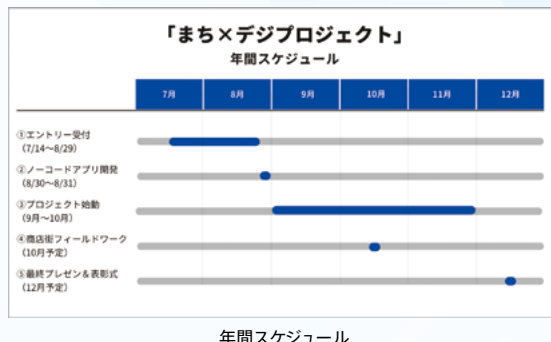
まち×デジプロジェクト ～商店街の課題をノーコードアプリで解決～

令和7年度

ISITでは、地域の商店街やまちを舞台に、学生たちがデジタルの力で課題解決に挑むことを目的とした「まちデジプロジェクト」を実施しています。

近年、地域の商店街は少子高齢化や人手不足、デジタル化の遅れなど、様々な課題に直面しています。そうした課題を、学生たちの柔軟な発想とデジタル技術を掛け合わせることで、新しい解決策を生み出すことを目指しています。

プログラムでは、学生がノーコードツールを学び、実際に地域の現場で課題を探り、成果を発表する一連のプロセスを体験します。学びを実践につなげることで、学生にとっては「現場で使える力」を育む場となり、地域にとっては「新しい挑戦の芽」を育てる機会となります。



「生成AIビジネス最前線」 AIエージェントの最新活用法のイベントを開催

令和7年度

福岡SRPセンタービル1FのSOILイベントスペースにて「生成AIビジネス最前線」AIエージェントの最新活用法のイベントを6月27日に開催しました。このイベントには会場18名、オンライン42名の合計60名の参加があり、参加者の生成AI、AIエージェントへの関心の高さがうかがえました。

講師のがばいAIコンサルティング株式会社代表取締役社長の本間謙斗氏からは「“ジブンゴト”として生成AIを捉えることの重要性」のほか「ChatGPT Operator、Genspark、Napkin、がばい営業ロープレくんなどのデモ事例」「AIエージェント導入のステップ(単独活用～完全自律型)とその実務展開」など実践力のある内容で説得力あふれる講演でした。

このイベントの続編として7月・8月には「生成AI実践ワークショップ」を開催し、参加者が実際に手を動かしながら生成AIを活用し、「具体的な一歩」を踏み出す場を提供しました。



がばいAIコンサルティング株式会社
代表取締役社長 本間謙斗氏

DX提案で保育現場の業務効率化及び質の向上を 積極的に支援!

令和7年度

市内保育園等のIT化・DX化を促進し、業務の効率化や保育の質の向上を図ることを目的に福岡市が実施する「保育分野のDX促進モデル事業」に、ISITも参画しています。

ISITスタッフが市内のモデル保育園・保育所を訪問し、IT・DXの取組状況や課題をヒアリングし、保育園等の現状やニーズに沿ったDXの取組みの提案や支援を行っています。

訪問を重ねるうちに、こんな取組みをやってみたい、どのようなツールを使えば良いのかといったやり取りが増えており、保育園等の積極的な取組みが保育の質の向上に資するよう、ISITとしてしっかりと伴走支援してまいります。



ヒアリングの様子

ハッカソン・コンテスト“Engineer Driven Day” 2025を開催 | 令和7年度

福岡市が取り組む「エンジニアフレンドリーシティ福岡」(以下、「EFC」)では「エンジニアが集まる、活躍する、成長する街、福岡」を目指して、エンジニアや企業と協力し、スキルアップや活躍できる機会を増やすなどエンジニアを取り巻く環境の充実に取り組んでいます。

EFCは、新たなサービスや製品、時代をリードするようなプロトタイプを生み出すエンジニアの育成・発掘を目的に、「アイデア出しからプロダクト開発まで一連の流れを体験する」ハッカソン・コンテスト「Engineer Driven Day 2025」(以下、「EDD」)を開催しています。

EDDは、エンジニアの「やってみたい」を形にするためのワークショップ＆開発イベントで、エンジニアに興味がある人、目指している人、すでに活躍している人、年齢や性別に関係なく、テクノロジーで何ができるかを考え、作り、成長することを目指しています。

今年度は、新たなイベントとして、出張アイデアソンやオンラインアイデアソン、生成AIドリルを実施し、これまで以上に参加者の開発をサポートします。



2025キックオフ



ハッカソン・コンテスト

エンジニアフレンドリーシティ福岡(EFC)アワード 2025を開催 コミュニティ部門・企業部門・プロダクト開発部門の表彰を行います | 令和7年度

EFCでは、福岡のエンジニアの活動をより活発なものとし、またその活動を取り巻く環境を向上させていくことを目的として、EFCアワードを開催します。

EFCアワードでは、エンジニアの交流促進や活動の活発化、スキルアップ等に貢献する活動を行っている「エンジニアコミュニティ」や、エンジニアのスキルアップにつながる取り組みや働きやすい環境づくり、コミュニティ活動への支援等を行っている「企業」、さらにEDDで優れたプロダクトを開発した「個人・チーム」の3部門について表彰します。

12月上旬から中旬に、国の重要文化財に指定されている福岡市赤煉瓦文化館の館内にあるエンジニアカフェにて、EFCアワード3部門の表彰イベントを開催する予定です。



EFCアワード



もう悩まない! オープンデータ作成作業を劇的に変える BODIKエディタの提供開始 | 令和7年度

地方自治体職員がデジタル庁のオープンデータ形式(標準オープンデータセット)に沿ったデータ作成を容易にするツール「BODIKエディタ」を提供しています。

このエディタは、従来のBODIKユーティリティで提供していた様々なツール、例えば文法チェックや緯度経度を編集可能なジオコード、住所正規化(分割)、緯度経度確認のマップ機能などを統合したエディタとなります。

使い方は、形式が整っていないcsvファイルを読み込み、作成するデータの種別を選び、コピーや変換などの「アクション」を指示することにより、標準形式へ変換していくものです。

ダウンロードの際は標準オープンデータセットで定義されているファイル名やutf-8形式へも自動で行われますので、データ専門の職員だけでなく、データを持つ原課職員みずから標準オープンデータセット形式で作成できるものとなっています。

主な機能(アクション)

- ・既存 csvデータから標準オープンデータセットへの列コピー
- ・住所を正規化・分割するアクション
- ・住所から簡易的な緯度経度への変換、緯度経度の編集機能
- ・和暦から西暦への変換
- ・標準オープンデータセット形式でのcsvダウンロード

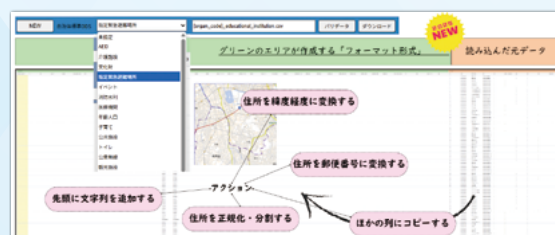


図: BODIKエディタ説明画面とアクション例
(<https://utility.bodik.jp/bodikeditor>)

ISITとTISが連携協定を締結、 BODIK ODCSにフィードバック機能を実装

令和7年度

TISとの連携によるオープンデータ利活用促進

ISITは、オープンデータ利活用促進に向けた取組みを強化するため、TIS株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:岡本安史氏)と連携協定を締結しました。この協定は、より多くの自治体が質の高いオープンデータを容易に提供できる仕組みを検討し、オープンデータの積極的な活用を促すことを目的としています。これにより、地域課題の解決、経済の活性化、行政の高度化を目指します。

連携事項は、データ活用の「善循環」を実現するための共同研究・普及啓発や、BODIK ODCSの機能強化、TISが開発したフィードバック機能「CKAN Extension Feedback」の開発・実証です。

BODIK ODCSにフィードバック機能を実装

国内最大級の自治体オープンデータサイト「BODIK ODCS」(<https://odcs.bodik.jp/>)に、2025年7月からフィードバック機能の標準導入を開始しました。この機能により、データ利用者から提供者へ、直接「生の声」を届けることが可能となり、オープンデータのさらなる利活用促進が期待されます。

主な機能

- ・ダウンロード数、利活用数などの可視化機能(図)
- ・各データに対するコメント・評価機能
- ・データを活用したアプリケーションなどを紹介する機能
- ・データ提供者が利活用事例を評価する「課題解決認定」機能

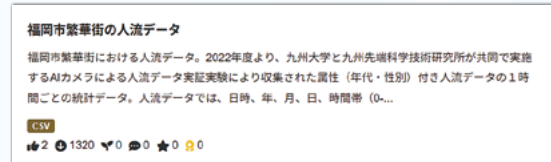


図: BODIK ODCSのフィードバック機能
(<https://data.bodik.jp/organization/isit>)

台湾からの半導体関連研究員受入れ

令和7年度

7月の1ヶ月間、台湾の金属工業研究发展中心(MIRDC: Metal Industries Research & Development Centre)から、陳靜樺氏がISITに駐在し、ISITそして九州の半導体関連企業や団体、大学との交流を深めました。

金属工業研究发展中心は、金属及び半導体や自動車などの関連工業が必要となる生産・管理技術の研究開発と普及を目的に1963年に台湾・高雄に設立された台湾經濟部(日本の経済産業省に相当)傘下の非営利財団法人です。

駐在最後の一週間は、金属工業研究发展中心の他メンバー、中華経済研究院(CIER: Chung-Hua Institution for Economic Research)のメンバーなども来日し、ISITメンバーとともに九州内の半導体関連企業や大学などを訪問。TSMCの九州進出による影響、国際的なサプライチェーンとの連携の状況、そして人材や技術に関する課題などについて、活発な議論を交わしました。



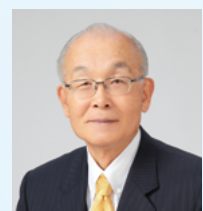
金屬工業研究發展中心
METAL INDUSTRIES RESEARCH & DEVELOPMENT CENTRE

産学官交流研究会博多セミナーで貫理事長が講演

令和7年度

7月4日に「産学官交流研究会博多セミナー」が開催されISITの貫正義理事長が講演を行いました。

講演では、今年30周年を迎えるISITの設立背景や、これまでの主な成果を紹介しました。貫理事長は、日本経済が「失われた30年」から脱却するためには、先端科学技術による新産業創出が不可欠であると述べたうえで、ISITは、人材と技術力を活かしてアカデミア、自治体、産業界の橋渡し役となり、福岡から次世代の技術と価値を生み出すことを目指すと強調。産学官連携の力でイノベーションを創出し、地域経済の発展、ひいては日本経済の再興に貢献していくという力強いメッセージで締めくくりました。



理事長 貫正義

九大伊都 春の文化祭2025 サイエンスマルシェに参画

令和6年度

3月22日・23日に福岡市産学連携交流センター(FiaS)や、いとLab+(いと・らぼ・ぷらす)が立地する九大新町を中心に「九大伊都 春の文化祭2025 サイエンスマルシェ」が開催されました。本イベントは、地域社会やアカデミアによる「共創の場」を創出・発展させることを目指して様々な団体が参画する九州大学主導のグループ「K@ITO(カイト)」と九大伊都 蔦屋書店を中心に企画したもので、ISITはFiaSと共同で最新の顕微鏡体験会を実施しました。

同イベント期間中、蔦屋書店内に光学顕微鏡を体験できるブースを設置し、さらに大型の分析機器を擁するFiaS分析機器室を開放して、最新のデジタルマイクロスコープや電子顕微鏡を体験いただきました。2日間で200名をこえる方に参加いただき、これらの分析機器を実際に操作して、熱心にサンプルを観察する参加者のみなさまからは驚きの声があがり、また多くの質問をいただくことで、非常によい周知、交流の機会とすることができました。



蔦屋書店内



FiaS分析機器室内

CERI 寄付講座で山田研究所長が講演

令和7年度

一般財団法人化学物質評価研究機構(CERI)と九州大学大学院工学研究院応用化学部門による公開講座(寄付講座)が福岡市産学連携交流センター(FiaS)交流ホールで開催されました。

テーマは「先端材料科学 ～設計・構造・物性から機能化まで～」で、前期講座(全14講)の初日である5月10日にISITの山田淳研究所長が登壇しました。ISIT マテリアルズ・オープン・ラボ(MOL)ナノ材料グループで研究開発を行う「プラズモンナノ材料」について、学生をはじめとする参加者のみなさまに、基礎から応用まで学んでいただく機会となりました。



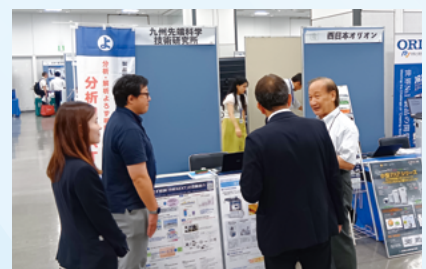
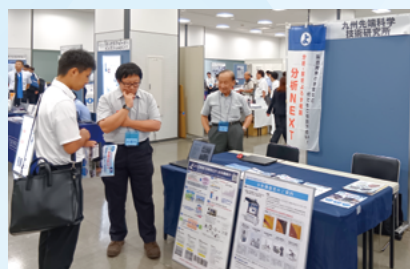
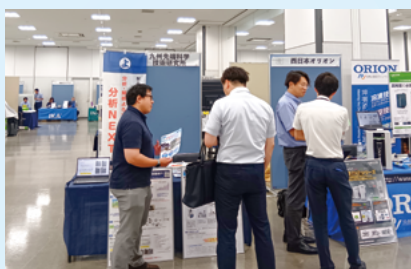
ISIT 研究所長 山田淳

研究・開発・分析産業展2025へ初出展

令和7年度

ISITは、7月24日・25日に西日本総合展示場にて開催された「研究・開発・分析産業展2025」へ初出展しました。本展示会は、正晃株式会社の主催で、環境・食品・ケミカル・半導体・バイオ・製薬・自動化をテーマとして国内外を代表するメーカーが研究・製造に関するあらゆる製品・サービスを広く紹介するものです。

ISITは、分析機器を利活用して製品・研究開発を支援する団体として、企業等の課題解決を支援するよろず相談「分析NEXT」の取り組み等を展示出展し、情報交流・PRの貴重な機会とすることができました。



ブース対応の様子

小中学生向け夏休み体験実験「生物に学ぶバイオ・ナノテクノロジー ～広がるタンパク質の世界と先端分析が拓く未来～」を開催しました。

令和7年度

ISITでは、小中学生向け夏休み体験実験「生物に学ぶバイオ・ナノテクノロジー ～広がるタンパク質の世界と先端分析が拓く未来～」を九州大学未来化学創造センターと福岡市産学連携交流センター(FiaS)指定管理者(西鉄ビルマネージメント株式会社)と共同で8月2日に開催しました。

九州大学 神谷 典穂 教授・日下部 宜宏 教授とISIT 吉原大輔イノベーション・アーキテクトによるレクチャーの後、九州大学主導の遺伝子組換え技術により得た蛍光タンパク質を利用した観察実験や、ISIT 主導の最新の光学・電子顕微鏡体験などを実施しました。

当日は、親子56名(うち児童27名)が参加し、白衣を着用したバイオ実験の体験と、昆虫などをマイクロ・ナノスケールで操作観察を体験する貴重な機会となりました。



講義の様子



電子顕微鏡体験



デジタルマイクロスコープ体験

第63回分析化学講習会 (SEM/TEM, NMR, 分光分析)を開催

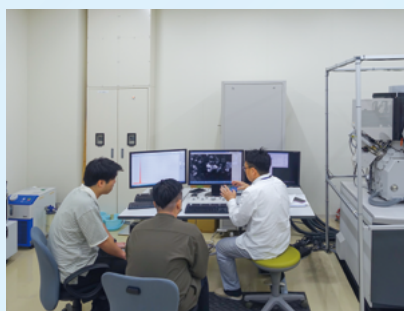
令和7年度

ISITは人材育成事業の一環として日本分析化学会九州支部主催の分析化学講習会に共催として参画しており、今年度の63回分析化学講習会では、SEM/TEM(電子顕微鏡分析)を7月29日、NMR(核磁気共鳴分光法)を8月4日、そして今年度新規開講のRaman(分光分析法)の講習会を8月5日に福岡市産学連携交流センター(FiaS)で開催しました。

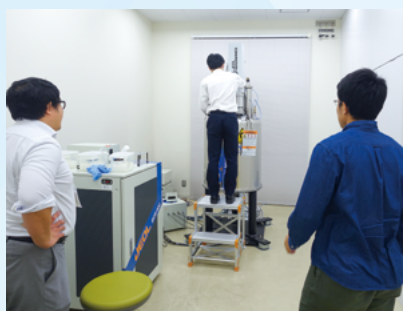
ISITは3日間の講義と実習において、会場の運営や講師、実習指導員の派遣を行うなど講習会が円滑に開催できるよう支援を行いました。各日、午前中は講師による装置の原理等についての講義、午後からは実機を使っ

ての実習を行いました。
特に、新たに始まったRamanではISITの河済博文特別研究員が講義を行い、実習では日本分光株式会社の実習指導員の皆様の協力のもと、装置の内部まで確認しながら実試料の測定を行い、受講者に各種測定法についての理解を深めていただきました。

講習会をきっかけにFiaSに設置されている大型装置の利用に興味を持つ方もおり、今後の活動に繋がる機会となりました。



SEM/TEMの実習



NMRの実習



Ramanの実習

デジタル時代の海外進出セミナー開催

令和7年度

総務省九州総合通信局、福岡市、ISITの共催で、アクロス福岡にて「デジタル時代の海外進出セミナー」を5月9日に開催し、現地30名、オンライン44名、合計74名が参加しました。

本セミナーは「販路開拓」や「現地調査」など、海外進出を検討する企業、特に地方企業を対象に、国の支援制度や支援策を分かりやすく解説することを目的として企画され、総務省国際戦略局国際展開課長嶋田信哉氏による「安全性・信頼性を確保したデジタルインフラの海外展開支援事業」の説明の後に、福岡市経済観光文化局投資交流推進部が「福岡市の国際的なビジネス交流促進に向けた取組みについて」説明しました。

トークセッションでは、(公財)ハイパーネットワーク社会研究所長青木栄二氏をファシリテーターに「国・自治体事業を活用した海外展開のポイント」などが議論されました。

このセミナーにより国の補助金をはじめて知った企業も多く、今後も地場企業の新たなビジネスチャンスに向けた情報発信を行って参ります。



総務省国際戦略局
国際展開課長 嶋田信哉 氏



(公財)ハイパーネットワーク社会研究所
所長 青木栄二 氏



会場の様子

キッズAIスクール in 夏休み(中学生編)

令和7年度

LINEヤフーコミュニケーションズとISIT共催で、中学生を対象に生成AIの活用方法を学ぶ体験イベント「キッズAIスクール in 夏休み(中学生編)」を8月1日に開催しました。

子どもたちのAIへの好奇心を引き出すとともに、ルールやリスクを理解し安全で健全な使用方法や実践的な使い方を学ぶことで、生成AI時代を生き抜く力を育むことを目的として企画されました。

当日は13歳以上の中学生22名が参加しAIの歴史、基礎知識、得意な事や苦手な事、リスクなどを学んだ後に実際に生成AIを使ったゲームを体験。即座な回答と画像生成ができるAIの利便性に注目が集まりました。

グループワークでは、学校生活や身近な課題を洗い出しAIで解決できるアイデアをブレインストーミングした結果を各グループで発表しました。

このイベントにおいて「生成AIで自分が思いつかないことを提案してもらい、一緒に考えるパートナーとして使うことで夢とか好奇心を広げる助けになると良い」という“AIの可能性を体感する”イベントとなり、参加者からも楽しくわかりやすいイベントだったとのコメントが多く寄せられました。



ゲーム体験の様子



グループワークの様子



発表の様子

よろず相談 分析NEXTのご案内

付加価値の高い製品を開発するためには、原料から製品、製造プロセス、さらには消費者への対応まで、分析・解析技術が極めて重要になっています。分析NEXTでは、企業等が抱える製品開発等における課題に対して、その解決に向けてどのようにアプローチをするかを科学的に紐解く、よろず相談窓口を設置しコンサルティングや電子顕微鏡など各種分析機器を活用した技術支援を行っています。

ISITの賛助会員様や福岡市内の中小企業への優遇措置も導入しておりますので、詳細は二次元バーコードよりご覧ください。



分析NEXT

問い合わせ先 E-mail:bunseki@next-soudan.com または MOL事業推進室まで

賛助会員 募集

ISITでは、賛助会員の募集を行っています。

- 会員特典 1 ISIT主催のセミナー・交流会のご案内
- 会員特典 2 よろず相談分析NEXTのコンサルティング料金を割引
- 会員特典 3 ISITウェブサイトで会員紹介(リンク等)
- 会員特典 4 活動報告書、活動レポートの送付等

お申込み・問い合わせ先 E-mail:isit-soumu@isit.or.jp または 総務部まで

メールマガジン 募集

ISITでは、市民講演会や各種セミナーの情報などを発行しております。メールマガジンのお申し込みは下記URLをご覧ください。

詳細はこちら <https://www.isit.or.jp/publication/mailmagazine/>

公益財団法人 九州先端科学技術研究所 (ISIT)

■ 事務局(総務部/事業調整部)

総務部 TEL:092-852-3450
事業調整部 TEL:092-852-3460
FAX:092-852-3455

■ OIL(オープンイノベーション・ラボ)

社会に貢献する最先端IT技術を活用した社会実装、社会実証を産学官連携で推進しています。

TEL:092-852-3453

〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目1番22号
福岡SRPセンタービル5階
URL:<https://www.isit.or.jp>

■ MOL(マテリアルズ・オープン・ラボ)

● ナノ材料グループ/事業推進室

金属ナノ材料より構成される光機能素子の創製に向けた基盤技術の開発、ならびによりず相談分析NEXT事業等を行っています。

TEL:092-805-3810

FAX:092-805-3814

● 有機光デバイスグループ

次世代有機半導体光デバイスの創製に向けた革新的な共通基盤技術の開発を行っています。

TEL:092-807-4511

FAX:092-807-4511

〒819-0388 福岡市西区九大新町4-1
福岡市産学連携交流センター(FiaS)内